



の いる 風 景

穂 積 佳 さん



【ほづみ けい さん】 東千歳中3年生
 ●平成26年に神田日勝記念美術館主催の「馬の絵展」で受賞したのをはじめ、平成27年には東京美術文化協会主催の「全国学校秀作美術展」に出品した作品が「文部科学大臣賞」に輝くなど、数々の美術コンクールで入賞を果たす。

絵を描いているときが

一番楽しい

「小さい頃から絵を描いたり、工作するのが得意でした」と笑顔を見せるのは、平成27年に東京美術文化協会が主催した「第72回全国学校秀作美術展」に出品した水彩画「たそがれ牛舎」が「文部科学大臣賞」に輝いた穂積佳さん。

全国2000点余りある応募作品の中から最高賞として選ばれたもので、平成28年11月には「千歳市民文化奨励賞 芸術（美術）」を受賞した。

「たそがれ牛舎」は、取り壊される寸前の牛舎を描いたもので、「ここで仕事をしていた人がたたくさんの時間を過ごし、たたくさんの思い出が詰まっているイメージと牛舎が役割を終えた夕方のイメージを重ねて描いた」と話す。

穂積さんが水彩画を始めたのは、中学に入学してから。「小学生のときから中学校に入ったら文化部に入部しようと思っていた」といい、「入部したときは、顧問の竹津先生と僕の2人

だったので、最初は少し緊張しましたが、絵の基本や技法などを先生から教わっているうちに少しずつ緊張もほぐれて、楽しい部活の時間になった」とほほ笑む。

1年生から3年生までの毎年、数々のコンクールや美術展に作品を出品し入賞を果たしている穂積さん。「これまで一番うれしかったのは、1年生のとき、鹿追町の神田日勝記念美術館主催の『鹿追町馬の絵展』に出品した『雪くもり』が北海道知事賞に輝き、初めて賞を受賞したこと」。

「雪くもり」は、曇り空の日、積もった雪が溶けた草むらに白い馬が2頭たたずんでいる様子を描いたもので「馬の体の影を描くため、下描きに時間をかけたことや、竹津先生から、筆の使い方、わらの描き方などを教えてもらいながら描いた」と話す。

受賞したことを新聞で知ったときはびっくりして「インターネットで確認

するまでは信じられなかった」と笑う。「鹿追町馬の絵展」には、その後も出品を続け、2年生のときは「JR北海道社長賞」、3年生のときは「文部科学大臣賞」に入賞している。

これまでに描いた作品で一番気に入っているのは平成28年に「私の海」をテーマとした絵画コンクール「我ら海の子展」で銀賞に入選した「砂利運搬船」を描いた作品。「とにかく船を描くのが楽しかったことや機械部分、金属のさびたところなどの描写に時間をかけた」と話す。

「残念なのは、先輩達が受賞している、国土緑化推進機構主催の『国土緑化運動・育樹運動ホスター原画コンクール』に入選できなかったこと」と悔しがる。

まもなく中学校を卒業する穂積さん、「小さい頃から物を作ることが大好きだったので、将来は『建築家』になるのも選択の一つ」と明るく話してくれました。